

令和8年度 調布市立多摩川小学校 学校経営計画（学校長 辻 紀子）

学校の教育目標	
◎思いやりのある子<徳>	○ 自分の考えをもつ子<知> ○ すすんで運動する子<体>
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p><子どもたちと教職員の共通テーマ> 一人一人の命が輝き、一人一人が活躍できる学校をつくる</p> <p>児童が、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長を実感できる学校</p> <p>保護者・地域住民の方々が、安心して子どもを通わせ、参画したいと思える学校</p> <p>教職員が、児童理解に基づき、組織の中で自分の強みを生かして前向きに取り組んでいこうとする学校</p>	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	調布市教育委員会が掲げる教育目標を達成するために、本校の教育目標をもとに現状を捉えると、子どもたちが自分の学びに自信をもち、心を豊かにしながら成長するためには保護者・地域住民、教職員が一体となり子どもたちの成長を支えることが最も必要であるため。
中期的な経営目標	
<p>① 児童が、自分と他者を価値ある存在として尊重できるようにするための自己有用感を高める教育の推進</p> <p>② 教職員が、児童に自分の成長を実感できる授業を展開するための「授業改善推進プラン」に基づいた指導力の向上 (「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業実践)</p> <p>③ 児童が、自分と対話をしながら課題を明確にし、健康と安全を意識した生活を送るための「心のケア」の取組</p> <p>④ 教職員が、すべての児童の自己実現に寄り添うための特別支援教育の推進</p> <p>⑤ 児童が、郷土を愛する心を育むための活動を推進するコミュニティ・スクールとしてのより一層の活性化</p> <p>人・組教職員全員が組織貢献力を高め、自分の職層の役割を理解し、強みを発揮しながら学校経営方針に参画するための育成</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
<p>① 人の役に立つ喜びを実感できるようにするために、特別活動と関連付け、児童の自主的・自治的な活動を通して一人一人が活躍できる場を促進する。</p> <p>→【調布市教育プラン施策1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語環境を整えながら、命を大切に教育を中心に人の役に立つ喜びを実感できるようにする(人権教育、道徳教育、多様な関わり、幼保小連携、小中連携、体験的活動、対話の工夫) ・子どもたちからの意見を取り入れた多摩川スタンダードの見直し(特別活動における委員会活動の充実) <p>② いじめの未然防止と対応を促進する。</p> <p>○年3回の児童アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを幅広く認知し、いじめ見逃しゼロの徹底 (専科教員を各学年に配置し、学年担任制を推進することによる一人一人の児童に寄り添った指導・支援)(生活指導夕会での情報共有の徹底) 	<p>① 全教科を通して『主体的な学び手』を育てる授業を展開する。</p> <p>→【調布市教育プラン施策2】</p> <p>○日常的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制や交換授業等を行うことにより、教員の教科における専門的な授業力向上を図り、児童の学びをより深められるような環境の確立(言語環境充実のための学校図書館の活用促進、話し合い活動、自由進度学習、個別最適な学び、児童一人一人に合った学びと学び方の授業づくり、ICTの効果的活用、自力解決の時間の確保) <p>② 校内研究を柱として、令和8年度の研究主題である「主体的に学び、考えを深める子の育成～深い学びの視点で～」のもと、児童全員を全教職員で育成していく。</p> <p>○年10回(校内研修含)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を基盤としながら、個別最適な学びの充実を図り、児童の「やってみたい」を叶える授業づくり ・話し合い<対話>の場の設定、地域社会・関係機関等への発信(コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との連携) 	<p>① 体を動かす楽しさ、心地よさを味わわせる。</p> <p>→【調布市教育プラン施策3】</p> <p>→【調布市教育プラン施策6】</p> <p>○全体を通して毎学期1回以上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携(ゲストティーチャーの活用) ・ちょこプラ1調布の取組 ・体力・運動能力調査、意識調査から児童の強みや弱みを把握した授業実践 ・児童と教員の心のケアの実践 <p>③ 食育の推進、食物アレルギー疾患対応の徹底</p> <p>○日常的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食レターによる指導の推進 ・毎月のアレルギー食材についての情報共有の徹底 ・教職員打ち合わせでの情報共有の徹底
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
<p>① 学校評価アンケート(児童・保護者)で相手を思いやる言葉や相手を意識した言語が育まれているのかを問い、85%以上の肯定的評価を目指す。</p> <p>② 学校評価アンケート(児童・保護者)で児童に寄り添った指導・支援ができているかどうかを問い、85%以上の肯定的評価を目指す。</p>	<p>① 学校評価アンケート(児童)で授業はどんな時が楽しいか、自分に合った学び方が見つかっているか、読書活動は確保されているかを問い、85%以上の肯定的評価を目指す。</p> <p>③ 学校評価アンケート(児童・保護者)で自分からすすんで勉強ができるようになったかを問い、80%以上の肯定的評価を目指す。</p>	<p>① 学校評価アンケート(児童)で、自分の強みや苦手を知り、自分の目標を立てて取り組むことができているかを問い、85%の肯定的評価を目指す。また、学校評価アンケート(保護者)では、運動の日常化については、80%以上の肯定的評価を目指す。</p> <p>② 学校評価アンケート(児童・保護者)で食事や給食に関心をもって生活しようとしたか、健康を意識して生活できたかを問い、80%以上の肯定的評価を目指す。</p>

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 個に応じたきめ細やかな支援	5 魅力ある学校づくりの推進	
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	
① 一人一人の教育的ニーズに寄り添う支援を継続し、推進する。 →【調布市教育プラン施策4】 ○日常的な取組 ・校内委員会、たまがわ若木学級、特別支援教室（通級指導教室）、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーでの組織的対応・連携（交流及び共同学習の日常化、個別指導計画、個別の教育支援計画〈学校生活支援シート〉の作成と活用の徹底、スタートカリキュラムの推進） ・すべての児童の支援・指導を効果的に行えるようにするための「たまごわの部屋」の充実 ・特別支援学校との副籍事業における交流及び共同学習のより一層の推進	① 魅力ある学校づくりを推進する。 →【調布市教育プラン施策5】 ○日常的な取組 ・広報活動（週に3回以上学校 web ページを更新する。） ・保護者、地域住民の方々の授業参画 ・コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に推進し、将来を担う児童の育成 ・授業観察の充実（授業観察シートの活用、主体的に学ぼうとする力に焦点をあてた授業観察）	
② 子どもが相談したいと思う場づくり、いじめ見逃しゼロ、SOS 見過ごしゼロを目指す。 ・不登校新規ゼロを目指し、途切れない支援の定着（欠席1日目から電話連絡、3日目以降は校内で共有し、家庭訪問）	② 学校における働き方改革を推進するために、教職員と対話しながら熟議し、働きがいがある環境にする。 ○週に1回以上の取組 ・児童に向き合う時間を確保するためのスクール・サポート・スタッフ、副校長補佐の活用、会議の見直し、タイムマネジメント、計画的な休暇の確保	
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	
① 学校評価アンケート（児童・保護者）で、安心して学校に通えているか、適切な支援ができていないかを問い、85%以上の肯定的な評価を目指す。	① 学校評価アンケート（児童・保護者）で、魅力ある学校であるか、学校の様子等適切な情報が発信されているかを問い、85%以上の肯定的な評価を目指す。学校運営協議会の存在を知り、児童の教育のために効果的な活動ができたかについても85%以上の肯定的な評価を目指す。	
① 学校評価アンケート（児童・保護者）で、安心して学校（教職員）に相談することができているかを問い、80%以上の肯定的な評価を目指す。	② 教職員の90%以上が、働きがいがある職場であると実感し、成果として児童と向き合う時間の確保につながったといえることを目指す。	

人材育成・組織運営
職層に応じた職務の遂行、一人一人の取組の重点の共有・相互支援、服務規律の厳正、待遇等について計画的に育成を図る。 OJT の実施で全体の資質能力の向上を図ったり、相互支援をしたりしながら組織運営ができるようにする。